

## 「『救われる』とは」(要旨)

聖書箇所：ヨハネ 3:16

### 【1】 『救い』とは何か

長引くコロナ禍、少子高齢化社会、就職氷河期世代、そして続く物価上昇。多くの人々が生きることによって不安を感じています。不公正な枠組みに憤りを覚え、将来に絶望する若者達の声も聞こえて来ます。誰もが、この世には何かしらの「救い」が必要だと感じていないのでしょうか。一方、心の拠り所を求めて来る人々に「救い」と称して靈感商法により高額の商品を買わせたり、地域社会からの隔絶を誘導するカルト宗教もあります。

聖書の「救い」は、私たちが滅びではなく永遠のいのちへと導きます。その背景には、神の私たちに対する愛が存在します。M.ルターが「小聖書」と呼んだ今日の聖書箇所にもそのことが凝縮されています。神が私たちに救いたいと願われる動機は、私たちに対する愛なのです。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

(ヨハネ 3:16)

### 【2】 神は世を愛された

「世」の原語「コスモス」は、飾りや装飾、世界や宇宙、地球や地上に住む人々、あるいは神に背いている人の「世」を指します(参照:Thayer'sギリシャ語辞典)。

神の愛は、神を信仰して生きている人だけではなく、神に背を向け敵対している人にも及ぶと聖書は語ります。

### 【3】 ひとり子をお与えになったほどに

神はどれほど私たちが愛しておられるのでしょうか。「その(神の)ひとり子をお与えになったほどに」です。「ひとり子」とは、今から2000年前、ベツレヘムの飼い葉桶に寝かせられたイエス・キリストのことです。イエスが世に来られた最大の目的は、人を罪から救うために、人の身代わりに死ぬこ

とでした(マルコ 10:45)。聖書は「不敬虔な者」や「罪人」のためにイエスは死なれたと語ります(ローマ 5:6-8)。

「しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。」

(ローマ 5:8)

### 【4】 永遠のいのちをもつために

私たちは、自分では滅びに至る生き方をしていると感じません。真つ当な道に向かっていると考えます。しかし聖書は言います。

「義人はいない。一人もいない。悟る者はいない。神を求める者はいない。すべての者が離れて行き、だれもかれも無用の者となった。善を行う者はいない。だれ一人いない。」

(マタイ 23:10-12)

私たち人間は、誰一人例外なく罪をもって生まれ、永遠の滅びに至る生き方をしているのです。ですから自力で「永遠のいのちを持つ」ことができません。イエス・キリストが世に来られたのはそのためです。

▷「救い」とは、キリストの身代わりの死を信じる者に与えられる神からの恵みのプレゼントです。あなたも今日イエス・キリストを自分の救い主として心にお迎えしませんか？

